

多くの仲間が会社のアメとムチ、不当な食糧せめにたえきれずに脱走し、あるいはヤマを去っていつた。四年前には五人の仲間が「生活のために……」と涙を流して許しをこいながら集団で脱走した。しかしに、第二組合は多い。これららの仲間たちは、はたしてどんな生活を送っているのだろうか？

藤木さんは地域の第二組合員の家に家をよくまわる。Aさんはたしか収入は一萬五千円位多いらしいが、友たちがきて話しをしてゐるという時はない。

三池労組時代は明るいAさんだったが、いまはまず笑いがきえず、周囲に気がねしながら話をしてゐる。たまに行くといつまでも引きとめて、職場や家庭のグチをこぼす。思ひきつて帰つてこいというところ、「一人では……」とふんぎりがつかない。

Bさん、三池闘争中は大いにやり合つた間柄だったが、停年退職した時は夫婦で挨拶にきた。会社は年をとると見向きもしない。三池労組が頑張っていることだけがのぞみだといって帰った。

選挙も、署名も、ほとんどことわる人はいなくなつた。

あまりにもはげしい職員の横暴と、もうこれ以上体がもてないほどきたわれて、やっと三池労組の方に目を向けはじめたようだ。

「もう集団で三池労組に加盟することがあれば、ドンときますね」「私はインソップ物語の北風と太陽と旅人の話をよく思い出す。強く吹いたから外とうを脱ぐのではなく、あたたかい光を外とうを脱ぐ。第二組合へ行ったからといふところへおいやるのではなく、こちらから入りこんで話しをするのを待っているのですね」

三池闘争から十年、三池労組の聞かれますその重みと展望をのぞいてみる。